

- 43 -

第 18 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナーの議事録  
 Proceedings of 17th Seminar on Acari-Diseases Interface 2009 in Fukui  
 SADI ホームページ [http://sadi.workarea.jp/]

第 18 回集会（トキの里大会）は以下のとおり開催された。

## 1. 開催要領

ホスト：多村 憲（前新潟薬科大学）

期 日：2010 年 6 月 11（金）～6 月 13 日（日）の 3 日間、任意の時間帯の参加可能

会 場：トキ交流会館（新潟県佐渡市新徳潟上 1101-1 Tel 0259-24-6040）

費 用：参加費 1,000 円、疫学ツアー 1,200 円、懇親会 4,000 円

## 2. プログラム

### 1 日目 6 月 11 日（金）

当日早い到着（前日着の場合も）の参加者は周辺の里山で調査／資料や試料の授受交換など行う。

16:00 開会 ホスト挨拶（小講演）

16:15 WS「マダニを斬る」（座長：矢野泰弘）

北岡茂男：マダニの脱皮と Ecdysones 及び発育に伴う形質の発散、収斂現象

山内健生：島根県の日本紅斑熱汚染地域におけるマダニ相

杉本千尋：メタゲノム解析による日本産マダニの共生細菌叢の解明

矢野泰弘：マダニ共生微生物の電顕検索〈示説〉

17:00「検査あれこれ」（座長：馬場俊一）

棚林 清：野兔病起因菌の野生動物における抗体保有状況

藤田博己：リケッチア症と野兔病の簡易抗体検査法の検討〈展示と実演〉

馬場俊一：座瘡から採取したニキビダニ（*Demodex.sp.*）の、脚の動きと形態（SEM）

17:20 休憩

17:30 WS「若手研究者が語る I」（座長：杉本千尋）

中尾 亮：次世代シーケンサーによる *Ehrlichia ruminantium* 弱毒ワクチン株の全長ゲノム解読と弱毒化機序の遺伝的背景の解析

内島祥由紀：トルコのアナプラズマについて

佐藤真伍：奈良県の野生鹿が保有する *Bartonella* 属菌とそのベクターの検討

18:15 1 日目終了

18:30 厚生科研ベクター分科会および学振科研の班会議（参加自由）下記 1. を参照

日本リケッチア症臨床研究会役員会（オブザーバー参加自由）下記 2. を参照

### 2 日目 6 月 12 日（土）

8:00 バスによる疫学ツアー（7:50 に両津港前集合、8:15 に会場へ立ち寄り）～

9:00 トキ保護センター → 金山跡（見学、近傍で採集など）→ 会場帰着 12:30

13:00 シンポジウム「大陸と日本列島に橋を架ける」（座長：馬原文彦，岸本壽男）

基調講演「ACARI-BORNE RICKETTSIOSSES IN RUSSIA」・・・・・・ Irina Tarasevich

1. 北日本にみる *Rickettsia heilongjiangensis* 感染・・・・・・安藤秀二

2. 新疆ウイグル自治区におけるライム病ボレリアの多様性・・・・増澤俊幸

3. アジアで推測されるアナプラズマの多様性 . . . . . 大橋典男

4. アジアと日本列島に分布するツツガムシの共通性 <示説> . . . 高田伸弘・高

14:45 休憩

15:00 WS「ダニが食いつく」 (座長：堤 寛)

山藤栄一郎：南房総におけるツツガムシ病と日本紅斑熱の特徴，早期発見・治療の重要性

矢野泰弘：最近のマダニ刺咬症，自験例の集約と考察

堤 寛：ダニ咬傷の病理

15:40 WS「紅斑熱の多様性」 (座長：藤田博己)

岸本壽男：*R.japonica*による急性感染性電撃性紫斑病に関する臨床ならびに関連する疫学調査について

坂部茂俊：日本紅斑熱治療において副腎皮質ホルモンを併用すべきでないと考えer理由，最初からテトラサイクリン，ニューキノロンを併用すべきだと考える理由

山本正悟：宮崎県の日本紅斑熱発生におけるイノシシの役割に関する調査

御供田睦代：鹿児島県のリケッチア症の現状と課題

藤田博己：我国のマダニ媒介リケッチアの隠された問題，北の *heilongjiangensis*，中の *canadensis*，南の *honei*

16:40 休憩

16:50 歓迎講演「佐渡の自然とトキ・動物相」 坂田金正 (佐渡とき保護会会長)

(座長：多村 憲)

17:30 2日目終了

18:00 懇親会 (会場内にて) . . . 任意終了して薪能を見学 (近傍の牛尾神社)

### 3日目 6月13日 (日)

8:45 WS「ダニとアレルギー」 (座長：松岡裕之)

及川陽三郎：ケモチダニによる皮膚炎

森田裕司：マダニ咬傷でアナフィラキシーになった3例

松岡裕之：ヒョウヒダニによる即時型アレルギー

9:30 WS「若手研究者が語る II」 (座長：岩崎博道)

田居克則：抗菌薬によるサイトカイン産生修飾作用を介したリケッチア感染症の生体防御

高野 愛：国内産爬虫類寄生性マダニから見いだされたボレリアとそのマダニ体内での動態

吉川悠子：*Listeria monocytogenes* のオートファジー認識システムからの回避機構の解明

10:10 休憩

10:20 WS「古くて新しいツツガムシ」 (座長：吉田慎一／高田伸弘)

成田 雅：福島県南部に多発するツツガムシ病，タテツツガムシ由来感染を中心に

高田伸弘：ツツガムシ病発生と相関するタテツツガムシの感染リスクマップ試作 <示説>

佐藤寛子：秋田県におけるアカツツガムシ媒介性つつが虫病について

須藤恒久：恙虫病予防啓発および自治体との連携と課題

- 三谷春美：ツツガムシのミトコンドリア遺伝子解析〈示説〉  
 中山圭介：細胞壁合成阻害剤がオリエンチアの増殖に与える影響  
 11:10 「宿題報告」 (座長：柳原保武)  
 安藤秀二：日本で報告されるリケッチア症の状況 2009  
 馬原文彦：感染症法と保険診療  
 11:45 3日目終了および事務連絡 (組織委員会)  
 12:00 会場復元後に解散

**3. 登録参加者名簿** (2010年6月上旬現在の登録簿による；以下70名に検討中の方が数名加わり、また県内関係機関からも随時の日程で参加があった)

安藤 秀二	国立感染症研究所
馬場 俊一	ばば皮ふ科医院
藤田 博己	大原研究所
福原 正博	新潟薬科大学薬学部
福長 将仁	福山大学
福長登茂子	福山大学
御供田睦代	鹿児島県環境保健センター
本田 俊郎	鹿児島県立大島病院
法月正太郎	亀田総合病院
池田 雄彦	佐渡学センター
井上 快	日本大学 獣医公衆衛生学研究
市川 康明	メリアル・ジャパン株式会社
岩崎 博道	福井大学
角坂 照貴	愛知医科大学
兼村 淳	千葉科学大学
川端 寛樹	国立感染症研究所
川上 万里	倉敷成人病センター 真備中央病院
川森 文彦	静岡県立大学
山本たける	亀田総合病院
岸本 壽男	岡山衛生研究所
北見 継仁	佐渡学センター
北岡 茂男	元・家畜衛生試験場
小林 秀司	岡山理科大学
馬原 文彦	馬原医院
馬原けい子	馬原医院
増澤 俊幸	千葉科学大学
松岡 裕之	自治医科大学
三谷 春美	福山大学
森田 裕司	明神診療所
森田貴久子	明神診療所
中村辰之助	新潟薬科大学

中尾 亮	北海道大学
中山 恵介	宮崎大学
成田 雅	太田西ノ内病院
野口 敏樹	佐渡学センター
小河 明美	大分県立病院
小河 正雄	大分県衛生環境研究センター
及川陽三郎	金沢医科大学医動物学
大橋 典男	静岡県立大学
大崎 智隆	福山大学
坂部 茂俊	山田赤十字病院
坂田 金正	トキ保護会会長
山藤栄一郎	亀田総合病院
佐藤 寛子	秋田県健康環境センター
佐藤 真伍	日本大学
関 雅文	長崎大学
清水 慶子	岡山理科大学
須藤 洋行	佐渡学センター
須藤 恒久	元・秋田大学
杉本 千尋	北海道大学
田淵 紀彦	福山大学
田淵 智美	福山大学
田居 克則	福井大学
高田 伸弘	福井大学
高橋 守	川越総合高校
高野 愛	国立感染症研究所
滝川 邦彦	佐渡学センター
多村 憲	新潟県
多村 夫人	新潟県
Tarasevich, Irina	ガマレヤ研究所
棚林 清	国立感染症研究所
堤 寛	藤田保健衛生大学
浦上 弘	新潟薬科大学
内島祥由紀	千葉科学大学
山本 正悟	宮崎県衛生環境研究所
山内 健生	富山県衛生研究所
柳原 保武	元静岡県立大学
矢野 泰弘	福井大学
吉田 真一	九州大学
吉川 悠子	静岡県立大学

#### 4. 次回開催の予告

次回開催の予告

名 称：SADI つつがの里大会

ホスト：岸本寿男（岡山県環境保健センター）

期 日：2011年10月後半～11月上旬の間の週末を予定

会 場：広島県の中国山地，国の特別名勝5か所の一つ「三段峡」地域にある日本の秘  
境100選「悠久の森」の「森林館」および「川・森・文化・交流センター」

交 通：中国自動車道の戸河内ICで降りてすぐの地域（広島市から高速バスで1時間，  
車で40分）

編集や事務連絡などは下記まで

- ・高田伸弘（福井大学医学部）

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

Tel/Fax 0776-61-8330（直）

e-mail acari アットマーク u-fukui.ac.jp

- ・藤田博己（大原研究所）

〒960-0195 福島県福島市鎌田字中江 33

Tel 024-554-2001(内 235)

Fax 024-554-6879

e-mail fujitah7knu アットマーク y8.dion.ne.jp

#### SADI 組織委員会

医ダニ学担当

- ・高田伸弘，矢野泰弘（福井大学医学部）

- ・藤田博己（大原研究所）

臨床医学担当

- ・馬原文彦（馬原医院）

〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町 6-1

Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641

- ・大滝倫子（九段坂病院）

〒102-0074 千代田区九段坂南 2-1-39

Tel. 03-3262-9191 Fax. 03-3264-5397

微生物学担当

- ・岸本寿男（岡山県環境保健センター）

〒701-0298 岡山市南区内尾 739-1

Tel. 086-298-2681 Fax. 086-298-2088

- ・吉田芳哉（株式会社シマ研究所）

〒174-0063 東京都板橋区前野町 3-6-10

Tel. 03-3966-2283

#### 後 記

われわれ SADI のお仲間は，昔から顧みられることの少なかった列島の隅々この地域を調査されるのがお好きな傾向があります。中でも，全国の沿岸に散在するさまざまな島嶼はよい調査対象になっているようです。ところが，佐渡島はなかなか私たちの調査地

として挙げられることがないまま来た感はあります。歴史上、昔の天皇系や超文化人が流された高貴な島であることに気後れがして、あるいは金山など私たちにはまず縁のない舞台であったせいでしょうか？ そういう中で、昨年、ご定年後もずっと新潟市に居られた大先達の多村憲先生がご病気から見事に快癒されたと伺い、これは快気お祝いに新潟の地でSADI開催をおねだりしようかという話になり、それなら「海は荒海、向こうは佐渡よ、ダニよ鳴け鳴け・・・」とも歌われていますから、佐渡島でやっていただこうとなりました。もちろん、セミナーに事寄せた現地フィールドの視察や採集も楽しみでした。

会場としては佐渡の復活トキにちなんだ施設「トキ交流会館」を予約しました。実際の事務作業や当日の運営は組織委員会や協力者がやれば済むことですから、多村先生にはその秋から島の各関係者へ打診していただき、暮れまでには佐渡観光協会の理事さんや多村先生の奥様の人伝てなどを経て、歓迎講演を石瀬佳弘先生（佐渡学センター所長）に委嘱することができました。それで一度会場の下見がてら石瀬先生をお訪ねしようと思い、新潟県に所用のある1月中旬に佐渡島へ渡るべくアポをとらせていただいたのですが、発つ数日前から日本海のシケが始まり佐渡汽船は航行保障なしというので、仕方なく春3月に参る旨お知らせして渡海を取りやめました。ところが、2月中旬の頃に石瀬先生から急にお電話があり、体調がすぐれないので演者を北見継仁先生（同センター副所長）に交代していただくとのこと。早速、北見先生と調整したところ、自分よりSADI向きの坂田金正先生（佐渡とき保護会長）をお願いしておくとのことで、やがて概略の調整はなり「佐渡の自然とトキ、動物相」というお話をいただけることになったのでした・・・そういう経緯の中で一つだけ、今だから申し上げますと・・・新潟県も早春3月の後半になりましたある日、かねて望んでおりました会場「トキ交流会館」の下見のため新潟行きのサンダーバードに乗ったのですが、新潟県の柏崎あたりに差しかかる頃、聞こえにくい携帯電話に北見先生から一報あり、先の石瀬先生が急逝されたというのです。驚きが止まらぬまま夜半には島入りし、翌朝に車で佐渡学センターを訪ねましたら、北見先生が来られて、今から石瀬先生のお棺が着く、生前親しんだ場所をバスで巡っているとのこと。やがて、お着きの石瀬先生に影ながら野辺の送りをさせていただいたことでした。帰路の車中からは、そこ此処の施設の前に黒い腕章をつけた方が見かけられ、石瀬先生は生前よく島人に尊敬された方であつたらうことが偲ばれました。一期一会のようなことが永く続いて来た島であつたらうことも・・・

（文責 高田伸弘）